

イニシエーションスピーチ 和田 夏彦会員

昭和45年7月23日生まれ現在53歳、国立市で生まれました。父母とも奈良県出身ですが、父は昔の満州、大連で生まれています。引き上げてきて、奈良県から二人とも東京に出てきました。私は第1子長男で、兄弟は2歳下に弟、3つ下に妹がいます。それぞれ独立して所帯を持っています。2歳のときに東京の国立市から調布市へ引っ越しをしました。その際に父方の祖母も一緒に暮らすようになり、小学校4年まで調布市で過ごしました。小学校4年のときに東京都板橋区へ引っ越しまして、公立の小学校、中学校に通いました。小学生のときは、虫取りや魚釣りなど、普通の子と変わらずよく遊んでいました。中学生の時は、父がもとと工業大学出でエンジニアだったこともあり、ラジオとか作るのがおもしろくなり、秋葉原に行って電子部品買って、ちょっとしたものを組み立てたりするようなことが趣味となりました。あの頃の秋葉原は電気街だったので、そこに頻繁に通うような生活でした。高校は東京農大一高に進学し、部活は剣道部に入りました。剣道部はスポーツ推薦をとっておらず初心者歓迎とあったので簡単な気持ちで入ってしまったのですが、ほとんど学校と部活だけの生活になってしまい、土日や夏休み、冬休み、春休みも部活で学校に行くような生活になっていました。その後、茨城県にある、流通経済大学社会学部へ進学しました。大学時代はいろいろなバイトをして過ごしましたが、いろいろやっただ中で変わったところでは建築関係の鉄筋工や、スーパーの試食販売の事務をしておりました。

大学卒業後、平成5年(1993年)に西武信用金庫、今の会社に新卒で入りました。勤続30年になります。最初は中野北口支店に配属、内勤事務を半年間やった後、営業をしていました。当時の営業は、1件1件ずつ集金に回るのが中心で、預金を取ってくるのが仕事、大体1日40件くらいお客様のところを回っていました。

「日掛、月掛、心掛け」なんてよく言われまして、週に何曜日と何曜日に行くところとか、積み立てをやってもらって毎月1回行くところとか、そういうのを中心に300件~400件くらい顧客を持っており、それをぐるぐる回るような仕事をしておりました。

西武信用金庫は都内に72店舗、東側は神田支店、日本橋支店があり、西側の青梅とか秋川(五日市)、東京を横断するように店舗があります。埼玉県入間と所沢に1店舗ずつ、神奈川県は相模原市に2店舗、合計76店舗の会社になっています。預金が2兆2500億円、融資が1兆5000億円、従業員数1154人といった規模で、本店と本部は中野にあります。平成14年に渋谷が本店の平成信用金庫と合併しました。西武信用金庫の名前は変わらずにそのままなっています。平成23年に神田支店が新店し、そこを機に都心部(日本橋、虎ノ門、飯田橋、本郷等)新店し、76店舗という店舗形態になりました。預金とか融資だけでなく、お客様支援活動と呼んでいますが、お客様の課題解決等、そういったことを中心としながら、他の金融機関と差別化するような活動をして金融だけではない動きをしています。

平成9年に新設店舗、新江古田支店に異動になりました。中野からこの辺のあたりを回っていたため、そのままお客様引き連れて新店舗へ行きました。平成14年の4月に中小企業大学校に1年間派遣になりました。国がやっている、いわゆる中小企業基盤整備

機構という学校なのですが、中小企業診断士の資格を取らせてもらいました。全国からいろんな金融機関、商工会議所、自治体等、私が行った時には104人いまして、一緒に勉強して資格を取らせてもらいました。平成15年に東中野支店に融資課長として異動になりました。平成14年に平成信金と合併していたのですが、東中野支店は小滝橋支店と同じ町内にあったため統廃合することになり、統廃合業務も一緒にやったのですが、当時は紙が多かったので、書類全部、特に融資関係の書類を全部チェックしていたため、結構何か月も休みがないような状態でした。金融の流れとしては、この頃バブル崩壊で不良債権問題が出てきていました。地域金融機関は、リレーションシップバンキングというものが金融庁から発表され、お客様と色々な対話をしてリレーションを語りなさいというような流れになっていく時代の中でした。

その後、事業審査部という、過度に担保に依存しない事業内容をよく理解した事業性融資を推進する部署として審査部ができて、そこに異動になりました。その際に4か月間VC(ベンチャーキャピタル)のJAFCOに出向として行き、その後事業審査部に戻って審査を担当したのですが、3年ほど経って平成19年9月に本店の営業課長に異動になりました。ここもまた変わってしまっていて、従来信用金庫は店舗から500m~1km圏内の範囲を営業エリアにしているのですが、当時神田支店とか都心部に店舗がなかったため、広域で担当するということで配属になりました。本店でいろいろな開拓をしながら融資、再開発の案件とか、大口の案件が多く、そういったことをやらせていただいていたのですが、2008年にリーマンショックがおきまして、今考えると、会社人生の中で一番厳しい時でした。会社の中ではかなり大口の融資先を担当していたので、不動産業者の倒産や、建設業者で数億融資したところが倒産、両方とも民事再生したのですが、不良債権の額でいうと2社合わせて45億円くらいになり、しばらく3年弱くらい不良債権回収の日々の状態になりました。担保処分の交渉を、お客様とか購入希望者と交渉とか、なるべく担保を売却してロスを減らしたいため、そういうことをやっていましたが、非常にこのときはきつかったです。

平成23年の9月に、経済産業省関東経済産業局という経産省の出先機関に官民人事交流で行くことになりました。この年は3月に東大日本大震災があり、いろいろガタガタしているときでした。行った部署は、いろいろな補助金の説明とか、補助金のいろんな施策があるので、その活用の相談に自治体とか産業振興団体、企業に出向くような仕事でした。一都十県、関東圏内、新潟、長野までカバーしていますが、私は東京、神奈川、埼玉を担当として、いろいろな企業や自治体に行かせてもらいました。震災の影響が大きくて、補助金もいろいろなものがあり、そういったお手伝いをさせてもらい、非常にやりがいのある仕事でした。出向者も多く、金融機関、いろいろな基礎自治体から出向者がいまして今も付き合いがありますが、いい思い出になっています。

私の家族ですが妻と息子が2人います。長男22歳大学4年生と、次男19才大学1年生で、妻とは28才のときに結婚したのですが、職場で知り合いました。長男が小学校4年から野球を始めまして、小中高大と軟式野球をずっとやっていますが、その縁で、野球をやったことがなかったのですが、いつのまにかコーチになってしまいいつもやっています。また長男が小学校入学時に、おやじの会が発足したので、こちらも入ってもらって、定期的にまだOBとして行っています。

おやじの会は、学校と連携しながら子供たちにいろんなことを、なかなか学校ではできないことを教えて行くという団体で、PTAとは違い任意団体であり活動は自由です。夏に流しそうめんや、ドジョウつかみ、地域のお祭り出て焼きそばを売ったり、そんなことをやっています。東日本大震災の時に、11月に南三陸の小学校の運動会を盛り上げてほしいと依頼があり、板橋区内、約20校おやじの会がありますが、皆で行っている手伝いをしました。これを機に板橋おやじの会が発足しソフトボール大会など親睦深めています。次男が中学3年生のときにPTA会長もやりました。私の出身中学校でもあったので、喜びと不安もあったのですが、なんとかやり遂げました。その縁で、板橋区には小中一貫校がないのですが、この学校が一貫校を検討しているため検討会の委員や、町会の役員、青少年健全育成の役員など、地域の事をやらせてもらっています。地域行事に関連するもので、夏キャンプに連れて行ったり、地域清掃、板橋シティマラソンのお手伝いをしております。

平成26年の4月に、本部の事業支援部に行きました。お客様支援活動の中心になっている部署で、事業者の課題解決のお手伝いを、ただ我々自分たちでは何もできないので外部の専門家、いろんな士業の方とか知見を持った方と繋いで助言頂いたり、もしくは補助金とりたい方を見てもらったり、施策の活用をしている部署です。あと、イベント(ビジネスフェア、食の見本市物産展)を企画、実施する部署になっています。

私はその中で、経産省行っていたこともあり、補助金の活用ですとか、知財の活用を担当していました。令和元年10月に、業務部の副部長として異動しました。営業店の数字の管理や、店舗運営の管理をしている部署で、店を回って店長や担当者にヒアリングしていました。このときコロナウィルスが発生したので、緊急事態宣言で出勤制限がかかり、コロナ融資の相談が殺到して営業店が混乱してしまったので、その心配をしていました。中野区からも要請があり、区役所で人出が回らないとのことで、コロナ融資を受けるための認定書の発行のお手伝いをしておりました。

令和3年の7月に、今の神田支店に異動してきました。コロナ禍が残る中だったので、最初の1年間はなかなか会合もなくお客様のところへ行くにも気を使いながらやりましたが、1年ほど経過し去年ぐらいから平時に戻りつつあり、今年の5月は、町会の方で神田祭りにも参加させていただいています。

西武100年企業の会も作りました。他にも女性後継者の会みたいなものもあります。神田エリアは女性の経営者が少なく、今はおりませんが会社としてはこういったこともやっています。

今までを振りかえって以上になります。

ご清聴ありがとうございました。